

2-2 地域教育プログラム

2-2-1 関連科目の履修登録状況

地域教育プログラムの地域基礎科目、近江楽士（地域学）副専攻科目の開講科目および履修登録状況は次のとおり。

○ 地域教育プログラムの履修登録状況（R1、R2）

科目名	履修登録者数	
	令和元年度	令和2年度
地域共生論	649	633
地域コミュニケーション論	42+10	62
近江の歴史と文化	87	15*
地域社会福祉論	105	137
地域づくり人材論	155	155
びわこ環境行政論	12	107
多文化共生論	70	不開講
地域産業・企業から学ぶ社長講義	101	155
SDGs と滋賀のグローバルイノベーション～近江の暮らしとなりわい～	51+35	45
近江の美	116	不開講
世界遺産のまちづくり・人づくり	27	17
地域診断法	61	81
システム思考法	26	24
問題解決デザイン論	30	22
コミュニティとライフデザイン	11	14
MBA 入門	32	27
地域企業講座	18	24
地域デザインA	14+12	47
地域デザインB	8	3
地域デザインC	8	3
地域デザインD	1	9

※上記表で「+○」と記載のあるのは、COC+事業合同実施科目、環びわ湖大学・地域コンソーシアム単位互換科目による県内他大学生の数

※近江と歴史と文化は2020年度入学生より人間学科目に変更のため、

め、2019年度以前入学生の履修登録者数。
※公開講義受講生は人数に含めていない。

2-2-2 地域共生論

「地域共生論」は、地域共生の意義を理解し自ら率先して地域における活動等を実践することの大切さを学ぶとともに、SDGsの視点も交えて考え、他者を理解し、共感と豊かな対話を可能とするコミュニケーション力向上を目指す1年次前期の全学生必修科目である。令和2年度前期はオンデマンド方式による遠隔授業となり、テキスト「地域共生論」を活用しつつ毎回授業内容を配信し、主にコミュニケーション力の要素である「他者の立場に立って思いやる」課題を与え、レポート提出を課した。本授業の特徴である少人数のグループワークができず難しい部分もあったが、学生からはコミュニケーションの大切さ、地域との共生について考えられたとの感想も出された。

また平成29年度から活用しているテキストを改訂し、令和3年度から新版の教科書を利用することとなった。

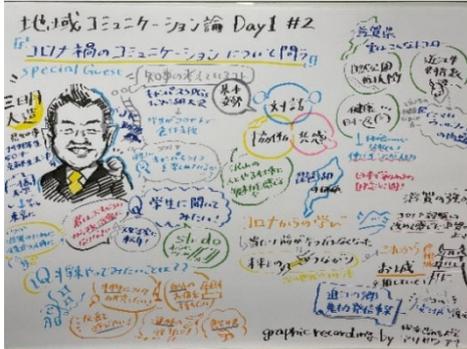
2-2-3 地域基礎科目

地域基礎科目は地域教育プログラムの基礎となる科目群で、全学共通の科目であり、全学部生は前記2-2-2の必修科目「地域共生論」のほか、選択必修科目から1科目以上選択必修する必要がある。

○ 地域基礎科目（選択必修科目）

科目	備考
地域コミュニケーション論	地域活動実践ターム実施
地域社会福祉論	
地域づくり人材論	
びわこ環境行政論	
多文化共生論	隔年開講（奇数年に実施）
地域産業・企業から学ぶ社長講義	
SDGsと滋賀のグローバルイノベーション～近江の暮らしとなりわい～	地域活動実践ターム実施
近江の美	隔年開講（偶数年に実施）
世界遺産のまちづくり・人づくり	彦根商工会議所寄附講義
地域診断法	副専攻科目（CN 必修）
MBA 入門	副専攻科目（SE 必修）

地域基礎科目のうち「地域コミュニケーション論」では、コミュニケーションとは何か、地域社会でコミュニケーションが重要視される背景等について考えた上で、産官学様々な立場・現場で活躍する地域人との対話や共同作業を通じて、リアルな地域課題を地域に関わる皆で分かち合い、その解決策を立案するための基礎能力、コミュニケーションの基礎体力を養うことを目的とする。その中で滋賀県の三日月大造知事から「コミュニケーションとは何かーコロナ禍の今、改めて問う」と題して講演頂いた。授業ではグラフィックファシリテーションの技法を用いて、議論やアイデアを見える化する手法も学んだ。



グラフィックファシリテーション

2-2-4 地域志向科目

地域志向科目は、各学部学科の専門科目として提供されるもので、地域教育の一環として積極的に履修することを推奨している。

令和2年度は、環境科学部の「環境フィールドワークⅠ」など8科目、工学部の「材料科学実験Ⅱ」など2科目、人間文化学部の「環琵琶湖文化論実習」他10科目、人間看護学部の「人間看護学概論」他4科目が地域志向科目に位置付けられている。

2-2-5 近江楽士(地域学)副専攻

1. 人材育成イメージ、身につける力と科目構成

(1)コミュニティ・ネットワーカー(CN)コース

CNコースでは、①地域を客観的に分析し、人や資源を結び合わせて地域再生に向けた取組をデザインする人材、②行政やNPO、市民活動等の分野でリーダーシップを発揮する人材の育成を目指し、地域を題材に具体的に地域課題を解決できるノウハウを学んでいる。

○ CN コースの科目構成

科目	備考
地域診断法	必修
システム思考法	
問題解決デザイン論	
地域デザインA	選択必修
地域デザインB	

(2)ソーシャル・アントレプレナー(SE)コース

SEコースでは、①コミュニティビジネスの発想と手法によって地域課題を解決に導く起業的人材、②起業家精神をもって地元企業等でリーダーシップを発揮する人材の育成を目指している。

ビジネスの手法を用いた地域課題解決や将来の起業あるいは地域に根ざした新たななりわい創出に必要な知識、ノウハウ、心構えを学んでいる。

○ SE コースの科目構成

科目	備考
コミュニティとライフデザイン	必修
MBA入門	
地域企業講座	
地域デザインC	選択必修
地域デザインD	

2. 近江楽士の称号授与者

近江楽士（地域学）副専攻の各コースの所定の単位を修得し、所属する学科の修了要件を満たすとその修了が認められ、近江楽士の称号が授与される。

近江楽士コミュニティ・ネットワーカー（CN）称号授与者は平成 26 年度から、ソーシャル・アントレプレナー（SE）称号授与者は平成 30 年度から輩出している。

SE コース称号授与者の就職先は、大学院進学者を除いて、すべて滋賀県内となっており、地元定着につながっている。

○ 近江楽士称号授与者数の推移

称号	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
CN	16	12	10	3	23	17	5
SE	-	-	-	-	3	5	1
合計	16	12	10	3	26	22	6
実人数	16	12	10	3	23	19	5

3 特徴的な講義内容等

近江楽士（地域学）副専攻の座学では、両コースとも地域課題に関するグループワークを中心に行い、地域デザインA～Dの講義では現場に足を運んで、地域の方々の協力を得ながら実践的な学びを修得したが、令和 2 年度はコロナ禍の影響で地域デザイン A は現地でのフィールドワークを実施できず、オンライン等で現地と意見交換した。

○ 令和 2 年度の主な実践現場

科目名	学びのフィールド等
地域デザインA	東近江市栗見出在家、大津市平野、大津市ナカマチ商店街、愛荘町ゆめまちテラスえちのオンライン等活用したフィールドワーク、提案発表
地域デザインB	地域活動をテーマとした動画の制作で地域の情報発信のノウハウを学ぶ
地域デザインC	彦根市石寺町における居場所づくりコミュニティカフェの企画、運営
地域デザインD	SDGs をテーマとした FM ラジオ番組を FM ひこねとも連携して企画・制作・実施

令和 2 年度の「地域デザインD」では、SDGs をテーマにした FM ラジオ番組の企画・制作・実施を体験することを通じて番組の企画・制作能力、交渉能力、聴く・話すなどのコミュニケーション能力さらには自らの情報を伝える発信伝達能力などの向上を目指すとともに、SDGs の理解を高めることを目的とした。18 回の放送ではそれぞれ SDGs に関わる活動を実施しているゲストを招き、受講者とのトークで番組を進めた。

なお、令和 3 年度はこの講義をもとに「県大ラジオ部」が結成され、活動を続けている。



ラジオ番組「ちかく de と〜くで SDGs」

○地元企業と連携した講義

「地域企業講座」では、地元企業経営者との対話を通じて、経営の実践的な知識を身につけるとともに、地元企業への理解を深め地元定着につなげる目的で、令和2年度前期はオンデマンド形式で多数の経営者等に登壇頂いた。

科目	登壇企業等名
地域企業講座	エフォート行政書士事務所（大津市）
	(株)ミヤジマ（多賀町）
	大洋産業(株)（彦根市）
	宮川バネ工業(株)（東近江市）
	(株)PRO-SEED（彦根市）
	(株)しがぎん経済文化センター（大津市）

「MBA 入門」では、企業や組織のマネジメント、ビジネスに関する知識やノウハウをビジネスゲームなどを通じて学び、併せて地元の企業等から具体的な経営戦略等の取組をもとにグループワークを実施した。

「MBA入門」の登壇企業等一覧（令和2年度）

科目	登壇企業等名
MBA入門	小川宗彦税理士・行政書士事務所（大津市）
	近江化成工業(株)（東近江市）
	丸三八シモト(株)（長浜市）
	サパナ（大津市）
	ミナト経営(株)（草津市）

選択必修の地域課題科目の一つ「地域産業・企業から学ぶ社長講義」においても、次の地元企業等から登壇頂いた。

「地域産業・企業から学ぶ社長講義」の登壇企業等一覧（令和2年度）

科目	登壇企業等名
地域産業・地域から学ぶ社長講義	(株)Honki（大津市）
	フジテック(株)（彦根市）
	(株)日立建機ティエラ（甲賀市）
	(株)ゴーシュー（湖南市）
	山科精器(株)（栗東市）
	(株)平和堂（彦根市）
	日本電気硝子(株)（大津市）
	(株)日吉（近江八幡市）
	日本ソフト開発(株)（米原市）
	オブテックス(株)（大津市）

2-2-6 近江環人地域再生学座

近江環人地域再生学座は、湖国近江をフィールドに地域診断からまちづくり活動の実践まで、地域における多様な活動や挑戦のための知識・手法の教授を通じて、地域資源を活用した地域課題の解決や地域イノベーションを興し地域社会を切り拓くイノベーターやコーディネーターの育成を目指すプログラムである。

プログラムを修了し、検定試験に合格することで受講者には称号「近江環人（コミュニティ・アーキテクト）」が授与される。自治体職員、民間企業、NPOや自治会に所属する方、建築や都市計画の専門家など様々な所属・専門の人材が受講し、令和2年度末までに146名（うち大学院コース70名、社会人コース76名）が称号を獲得した。

令和2年度の称号授与者は社会人コースの4名である。同年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で大学の前期が遠隔授業となったため、前年度に整備した講義室内のWeb講義撮影用環境を最大限活用し、オンラインを主体とした講義を実施し、県内外のフィールドでの現場講義は、対面授業が再開した後期に実施した。

しかしながら、近江環人称号授与者で組織されている特定非営利活動法人コミュニティアーキテクトネットワーク（NPO法人環人ネット）との協働による交流会は中止となった。

令和2年度オンラインを活用した講義により受講が可能となったことは、本コース受講を目指す社会人にとって、対面、オンライン、対面とオンライン併用のハイブリッド型の3つの中から仕事のスケジュールに合わせた柔軟な選択により学びやすくなり、近江環人地域再生学座の特徴の一つとして、今後受講のPRに活用していく。



奈良市「清澄の里 栗」にて記念撮影